

旧北海製罐倉庫(株)事務所棟 工場・倉庫

旧缶詰倉庫は小樽運河北端の埋め立て島にあり、小樽市の産業遺産の象徴です。北海製罐小樽工場第3倉庫は運河が完成した翌年、1924年に北海製罐株式会社のために建設されました。倉庫は老朽化により維持が困難となった2020年まで稼働していました。

北海道北部、ロシアのカムチャツカ半島沖で獲れたサケやカニを梱包するための空きブリキ缶が倉庫に保管されていました。堤商会（現在の北海製罐株式会社）は1910年にカムチャツカ半島に最初の缶詰工場を建設しました。これがオホーツク海の産業漁業の発展につながり、カムチャツカ沖には輸出用の魚介類を加工するための大型工場船が停泊しました。

日露戦争（1904年-1905年）での日本の勝利後の平和条約により、オホーツク海とロシアのカムチャツカ半島沿岸での漁業権が日本の船隊に認められました。この協定によりこの地域への日本の漁業進出がブームとなりました。サーモン缶製造は1937年にピークに達し、その年約250万ケース（各ケース48缶入り）のサーモン缶詰が汽船で輸出され、そのほぼ90%が英国に送られました。

大量の缶のための広い保管スペースが必要でした。4階建ての倉庫は内部空間を最大限に活用するように設計されていました。延床面積は7,000平方メートルを超え、そのほとんどが缶の保管庫でした。作業員は倉庫内を移動するために外部の階段とデッキを使用し、缶は外部のエレベーターとスパイラルシュートを介してフロア間で移送されました。

倉庫は2021年に小樽市に寄贈され、ツアーや音楽イベントなどに時々開放されています。スパイラルシュートが特徴的な外観は夜間ライトアップされています。